

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ7月-

～「川遊びと自然観察」～

7月21日、夏休みに入った最初の日曜は子供たちが主役です。人気のイベントですが、今年も5月の連休明けには定員を満たしてしまいました。前日、川遊びの場所となる草木川の整備をしました。石を積み、深くならないよう、また、イワナがつかみやすいように周辺に石垣を張り巡らしました。

イワナは、花山漁協さんのご協力によって調達したものです。当日は、自然観察からスタートです。水辺の生き物探し



〈何かいる〜〉

では、普段、目にする事のない生き物が見つかり、子供たちの歓声が上がりました。

昆虫などの観察が終わったら、放流したイワナのつかみ取りです。取ったイワナは、さばいて塩をふり、クシに刺して焼くところまで体験します。魚が嫌いな子が、ここに来ると食べるようになった、との声も聞こえてきます。自分で捕まえたものは、何か特別なものなのでしょうか。来年もイワナを食べに来て下さい!!



〈「イワナ」のつかみ取り〉

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大家さんのコーナーです

“夏のことりたち”

①ヤマドリのオスがやぶの中で、地面を掘り返しながらエサ取りです。私に気づいて、“もっと食べたいのに”残念そうに振り返りながら消えました。

②モズがチョウ?をくわえて警戒しています。取った後はすぐ草むらに隠れます。ゆっくり食べるのでしょうか。

③湿性植物園にカワセミがやってきてエサを運び始めました。この時はトンボを捕まえました。(大友)



〈①ヤマドリのオス〉



〈②モズ〉



〈③カワセミのオス〉

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

「真っ黒キノコ・・・」

科学館も里と同じように連日猛暑である。そんな中、館内にオニグチモドキが生えていた。

オニグチモドキは食であるが、見た目、手が出そうにないキノコのひとつである。名前も怖そうで、全身が黒くて傘はささくれだって旨そうな感じはしない。

数年前、バター炒めを試みた。まるでイカ墨料理ごとき真っ黒々。恐る恐る箸を出したがA級の旨さにビックリした。(は)



〈①オニグチモドキ〉



〈②縦に割ってみました〉

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～「向日葵」の力・・・ ヒマワリ(キク科)～

「向日葵(ヒュウガアオイ)が好きで 狂ひて死にし画家」という高浜虚子の句があります。向日葵とはヒマワリのこと、画家とはゴッホのことです。ヒマワリの魔力にとりつかれたゴッホを詠んだ句です。ヒマワリの原産地は、北米中部～南米北部といわれ、インカ帝国では太陽信仰における太陽のシンボルとして特別の地位を持つ花でした。現在ペルーの国花となっています。確かに夏空の炎天下で、夏の日差しを跳ね返すような花の力は太陽そのものに見えてきます。日本へは江戸時代初期に中国経由で伝えられていますが、「わび・さび」を重んじる気風から、あまり注目はされなかったようです。最近、町おこしの切り札として、放射線汚染を除去する植物として話題となっています。

さて、名の通り花が太陽の方向に回るのかという話ですが、若い茎の葉はある程度太陽を追いかけますが、花が咲くころには動きは止まり、東～東南の方角を向いたまま動きません。中には変な方角を向いた反抗期のヒマワリも見られます。暑い夏ですが、チョット観察されてはいかがでしょうか・・・(千葉)



〈夏空に咲く「ヒュウガアオイ」〉

夏休みを迎えて

科学館情報

7月は例年より涼しい日が続きましたが、夏休みに入った途端、連日、30度を超える夏日となりました。ここで、子供たちは涼を求めて「草木川」に水遊びにやってきます。今年は、学校のプールも高温のため使用中止の日が多く、自然の溪流は何よりの遊び場となっています。冷たくて大人は10分も持ちませんが、何と1時間も水遊びをした団体さんがいました。恐るべし子供のパワーといったところです。来年も暑い夏は遊びに来てね・・・